



—長岡市長に8回目の申入れ「新型コロナウイルスに関する要望書」と「大雪緊急要望書」—

「感染拡大」と「医療崩壊」を招かないための要望を提出！



1.14 高見副市長(左)に要望する
斉藤地区委員長、遠藤県議、
服部前市議、笠井市議

1月14日、遠藤れい子県議は笠井則雄・諸橋虎雄両市議とともに、8回目となる「新型コロナウイルス対策」と「大雪に関する緊急要望書」を長岡市長に提出しました。高見真二副市長、渡辺地方創生推進部長が応対し、「感染防止」の市民要望に真摯に取り組みと回答しました。

「市民の声を聞かせていただきありがたい。大雪の今こそは、財政調整基金も含め対応したい」と高見副市長

5分野24項目を要望

(1)「感染拡大」と「医療崩壊」を招かないために
①発熱外来を充実し、市民の不安を解消してほしい。

②医療機関・福祉施設等の社会的PCR検査

の実施を

③医療機関への減収補てんを行い、医療崩壊を防いでほしい。

④見舞金制度を作り、感染者へお見舞いを

(2)経済対策の要望

①持続化給付金、家賃支援給付金の支給を国に働きかけて

②市の独自の支援策で困窮する中小業者への支援を

③社会保険料の事業主負担の軽減を

④国民健康保険料のさらなる減免を

⑤消費税の減税を国に要望して

⑥雇用調整助成金の充実に国を求め

(3)生活保護制度の要望
①コロナ禍でも健康で文化的な生活を営むことができるように、生活困窮者への支援の充実を

(4)学生支援の要望

①学生生活は深刻な実態にある。授業料の減免や奨学金など、市独自の学生支援策を

②オンライン授業などで孤立化している学生に、情報発信や交流の場の

大雪に関する緊急要望(抜粋)

①除雪体制の強化を

②要援護世帯の除雪費 ④ビニールハウスなど農業施設等の被害防止の

支援額と助成回数を増やし、呼びかけを、また被害

③福祉灯油や除排雪支 受けた場合は支援を

(5)外国人への相談窓口の設置を
①留学生も含め相談窓口の設置を

「命を救いたい！県央も長岡も医療崩壊を防ぎたい！」
長岡赤十字病院の川嶋禎之病院長から要望を受ける

～三条地域の新型コロナウイルス感染拡大に歯止めを！～

1月14日、日赤病院 岡地域の医療崩壊の恐れもある。県央地域での命を救うため病院一丸で努力しているが、県

中等症まで診れる体制を整えて」と切実な訴え。張っている。
長岡赤十字病院の現状
・一般病床等を1病棟Uで対応するしかない。程度削減し、コロナ病棟1床の対応体制は整えて確保。看護師も捻出しているが、それ以上は難しい。
長岡中央総合病院は
・コロナ病床には様々な疾患を合併している患者が入院しており、人手がかかっている。
・救急患者を断らない、院内感染防ぐために、救急病棟とICUには



1.14 川嶋院長から病院の実情を伺う

救急病棟とICUには生じている。